

# 住まう

# 「ホーム」と呼べる関係をつくる住まい

中編

社会福祉法人グリーンコーポ 抱樸館福岡(福岡県福岡市)



「ファイバーリサイクルセンター」では届けられた衣類を入居者が仕分けます

## 図2 仕事内容・就労訓練の約束ごと

様々な種類の就労訓練を準備しています

### 第1段階

#### ファイバーリサイクルセンターでの作業

会員が善意で届けてくれた衣類などを仕分ける仕事。

- 一次仕分け・衣類の梱包・値札つけ・移送準備・チラシ配布など

衣類などはパキスタンに送られ、子どもたちが学校へ通うための資金になります。

### 第2段階

#### 青果リパック作業

生産者から段ボールやコンテナで届けられた青果を、組合員一人ひとりに届ける規格に詰め直す作業。ファイバーリサイクルセンター内での作業と違って、一般的パートさんたちとコミュニケーションを取りながら、いっしょに働きます。

### 第3段階 一般就労をめざす

#### 特別企画品の返品作業

グリーンコーポの組合員から返品された商品をメーカーに送り返すための業務。判断力が必要です。

#### 保育園などへの配達業務

グリーンコーポ「松島りすの森保育園」に軽トラックで食材の配達や、「ゆう\*あいショップ」への衣類の配達などをします。

「ゆう\*あいショップ」は、衣類を国内で販売するためのお店です。

これからも、段階に応じて様々な仕事を準備していきます。



「ファイバーリサイクルセンター」の外観

2010年秋に古着リサイクル(名前:ファイバーリサイクル、以下ファイバー)を始めました。ファイバーで衣類の選別作業を行うことが入居者にとって職業訓練になっています。ファイバーができる前から抱樸館では就労支援を行っていましたが、当初はせいぜい一緒にハローワークに行くことぐらいしかできず、成果も出ませんでした。現在、抱樸館で行う就労支援はファイバーを含め3段階に分かれています。次第に就労へ向けてステップアップしていく仕組みです(図2参照)。

この仕組みについて、青木さんは次のように説明します。

「働くことは収入を得るだけではなく、生きがいになつたり、生活リズムや仲間をつくったり、居場所になつたりするんです。『働くこと』と土・日が待ち遠しいと思うようになつた」と言つた人がいます。役割がない、出番がない、社会に参加できないというのは本当に辛いことです

「仕事をしてコミュニケーションをとること。これが生活の再生にながっています。お金がなければ生活保護費を支給する。住む場所がなければ住まいを提供する。それだけでは何にもなりません。そこにつながりをつくることがなければ、人は

もう一回頑張ろうという気持ちになれないんです。抱樸館では単に住居を提供するのではなく、色々な活動を通じて人と人とのつながりをつくることを大切にしています」

次号では抱樸館が大切にしていることと、将来についての展望をお伝えします。

(編集部)

「Faiyari Recycle Center's employment support statistics  
2010年11月に「ファイバーリサイクルセンター」を開設して以来、13年3月までに47人が訓練を受けました(3月現在23人が訓練中)。そのうち8人が一般の会社に就職、7人が共同作業所に入所、9人が高齢や病気のため生活保護を受けながら地域で生活、5人が一般就労予定。

「Faiyari Recycle Center's exterior view

●相互扶助や社会資源の活用によるアフターフォロー  
●地域社会での生活に移行しても、相談・支援できる仕組みづくり

●自立(地域生活への移行)

●アパートなどの次の住まい探し

●地域の不動産会社との連携

●保証人バンクの利用

●地域の方やボランティアによる祝福・励ましの時

●就労の継続支援・給与の貯蓄(転宅費用積立)

●求職活動準備・病院受診・履歴書の書き方指導・面接指導・資格取得支援

●就職決定

●入居2ヶ月後

●就労支援プログラム

●入居生活保護申請

●立計画を立案

●行政などと連携しながら、自立支援プログラム・体操プログラムなど

●入居時面接、オリエンテーション、入浴、健康診断などを実施

●聞き取り調査票の作成

●複数回の面接により、自立の意

思などを確認

●本人からの相談

●面接・相談

●入居受付

●入居から自立までの流れ

●抱樸館での生活支援をご紹介します。

●支援する住まい「抱樸館」。今号は抱

●グリーンコーポ生協の組合員活動

から生まれた、ホームレスの自立を

●支援する住まい「抱樸館」。今号は抱

●グリーンコーポ生協の組合員活動

から生まれた、ホームレスの自立を